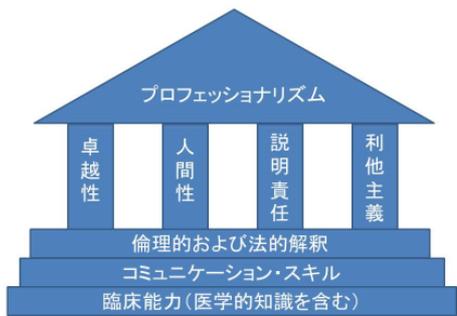


医師

医師のプロフェッショナリズムとは

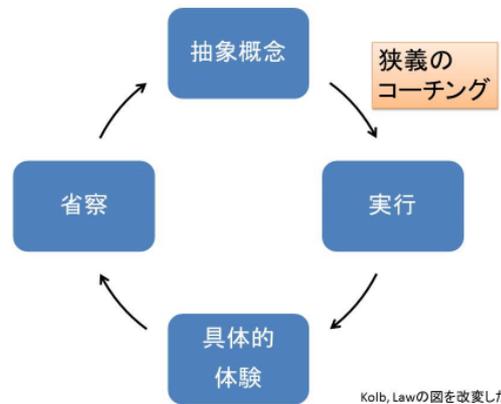
医師のプロフェッショナリズムについて普遍的なモデルはない¹⁾が、2つの代表的なモデルであるアーノルドとスターンの広義のプロフェッショナリズム²⁾と、欧米内科3学会・組織合同による具体的な原則と責務を提示したプロフェッショナリズム³⁾を示す。

アーノルドとスターンはプロフェッショナリズムについて図1に示す「定義」をしている。臨床能力、コミュニケーション・スキル、倫理的・法的理解を土台として、卓越性・人間性・説明責任・利他主義を4つの柱としてプロフェッショナリズムを支える図式である。また、欧米内科3学会・組織合同は医のプロフェッショナリズムである医師憲章を作成し、具体的な原則と責務を提案した。この憲章で患者の福利優先の原則、患者の自律性に関する原則、社会正義（公正性）の3つの原則と、プロフェッショナルとしての能力に関する責務、患者に対して正直である責務、患者情報を守秘する責務、患者との適切な関係を維持する責務、医療の質を向上させる責務、医療へのアクセスを向上させる責務、有限の医療資源の適正配置に関する責務、科学的な知識に関する責務（科学的根拠に基づいた医療）、利害衝突（利益相反）に適切に対処して信頼を維持する責務、プロフェッショナル（専門職）の責任を果たす責務（仲間や後進の育成など）の10の責務が提示された。



Arnold, Sternの図を一部改変した

図1 アーノルドとスターンの唱えるプロフェッショナリズムの「定義」



Kolb, Lawの図を改変した

図2 ナラティブ・コーチングの中心概念である学習の車輪

医師に対するプロフェッショナリズム教育

医療の現場では、医学専門的知識やスキルのみで診療が行われることは少なく、常に心理社会的問題を含んでいる。ときに不確実性や医師-患者間における価値観の相違などが複雑に絡み合い混沌とした状況になることも少なくない。たとえば、透析をやめたいという認知症の高齢者の場合、患者本人、家族、複数の医師と医療スタッフの考えが一致しない場面に遭遇する。この場合ひとりの医師の判断だけではなく、臨床倫理の4分割表を用

いて医療スタッフ、患者、家族とともに多角的に協議して結論に導くのも1つの方法であろう。高度の複雑さと曖昧さを扱う医療の実践の中、プロフェッショナルな医師としての行為と決断を省察しながら問題に取り組む姿勢が必要とされている。

このような背景の中、医師のプロフェッショナルリズムの教育の概要は、1) 目標を設定すること、2) 学習経験を積むこと。そして3) 成果を評価することであるが、大生は「プロフェッショナルリズムの教育は、初期の知識のレベル、態度・姿勢・行動のレベルに加え、学習者にとって重要なイベントを振り返ることができるような、そして体験を得られるような方略、さらにプロフェッショナルリズムのあり方を示してくれるロールモデルの存在、良いあり方を模索する文化や環境に身をおくことの重要性を指摘している¹⁾。

この点について宮田⁴⁾はポートフォリオにおけるSignificant Event Analysis (SEA: 訳さないで用いることが多いが有意事象分析と訳すことがある)の重要性を指摘し、研修医教育などで用いてきた。SEAを記載するポートフォリオは、通常の診療録とは別に、患者ケアを行う医療者自身の物語を記載しておくもので、患者とのかかわりの中で感じたこと、患者に対する思い、自分の感情など自分の経験を再考し、批判的な振り返りを含めて記載する。その振り返りの深さは人間的成長と関連するとされ、その経験を他のメンバーや教員らとともに共有する。医療者自身の物語の記載は、いわゆるナラティブ能力を高め、共感的全人的医療の実践をもたらすプロフェッショナルリズムの涵養をもたらす。一方、指導する立場に視点を変えると、これは学習理論を元にしたナラティブ・コーチング^{5), 6)}の考え方と共通し、指導者がナラティブ・コーチングを実践することで、より効果的な教育を行うことができると思われる(図2)。

文献

- 1) 大生定義：プロフェッショナルリズム総論. 京府医大誌, 第120巻6号, pp. 396-402, 2001
- 2) Arnold L, Stern DT: What is Medical Professionalism? In Sten DT (ed): Measuring Medical Professionalism. Oxford university press New York, pp.15-37, 2006
- 3) ABIM Foundation : American Board of Internal Medicine : ACP-ASIM Foundation. American College of Physicians-American Society of Internal Medicine; European Federation of Internal Medicine: Medical Professionalism in the new millennium: a physician charter, Ann Intern Med, 136:243-246, 2002
- 4) 宮田靖志: プロフェッショナルリズムと省察的实践. 日本プライマリ・ケア連合学会誌, 35(1), pp. 70-75, 2012
- 5) Palmer S, Whybrow A: Handbook of Coaching Psychology A Guide for Practitioners East Sussex Routledge pp.174-192, 2011 (スティブン・パーマー, アリソン・ワイブラウ(編者), 堀 正(監修・監訳), 自己心理学研究会(訳): pp. 207-327, 金子書房, 2011)
- 6) 西垣悦代, 堀 正, 原口佳典編著: コーチング心理学概論. pp. 189-205, ナカシニヤ出版, 2015

(森谷 満)